

地域自主戦略交付金事業 一般国道369号 大保道路

奈良県（道路建設課）

1. 再評価対象事業一覧表
2. 事業評価項目一覧表
3. 説明資料

事業評価項目一覧表

事業名	地域自主戦略交付金	事業主体	奈良県
河川・道路名等	一般国道369号	事業箇所	大保道路
評価項目及び評価内容			
<p>事業の目的及び必要性</p> <p><input type="checkbox"/> 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボトルネック区間の解消 ・ 緊急輸送道路の機能、走行性および安全性の向上 <p><input type="checkbox"/> 必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幅員狭小 ・ 線形不良 (P. 4・5) 			
<p>事業策定の経緯</p> <p><input type="checkbox"/> 当時の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内の国道369号唯一の幅員狭小区間 <p><input type="checkbox"/> 着手までの経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成20年度事業着手 (P. 3・4・6) 			
<p>事業の効果(費用対効果や施策的な効果など)</p> <p><input type="checkbox"/> 計画時の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急輸送道路機能の向上 ・ スクールバス等の走行性、安全性向上 <p><input type="checkbox"/> 現時点の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ B/C = 1.2 (P. 5・7) 			
<p>事業の進捗状況(着手時からの社会経済情勢の変化、事業の問題点、克服度など)</p> <p><input type="checkbox"/> 進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業進捗率：5.4% 用地買収率：0% <p><input type="checkbox"/> 執行の遅延及び原因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設計にあたっての地元調整および地図混乱 (P. 6) 			
<p>事業進捗の見込み</p> <p><input type="checkbox"/> 進捗の対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特に線形の悪い箇所を優先的に整備を進める。 <p><input type="checkbox"/> 進捗の見込み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成25年度中に用地買収に着手し、平成26年度に工事着手する予定。(P. 8) 			
<p>事業の対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特に線形の悪い区間から優先的に工事を実施し、部分的にでも事業効果を発現させていく。(P. 8・9) 			
<p>その他</p> <p><input type="checkbox"/> 関係機関等の意向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元自治会は事業に協力的 <p><input type="checkbox"/> 関連事業の有無</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 無 			

平成24年度 第2回 奈良県公共事業評価監視委員会

一般国道369号 大保道路

平成 2 4 年 1 1 月

奈良県土木部道路建設課

目次

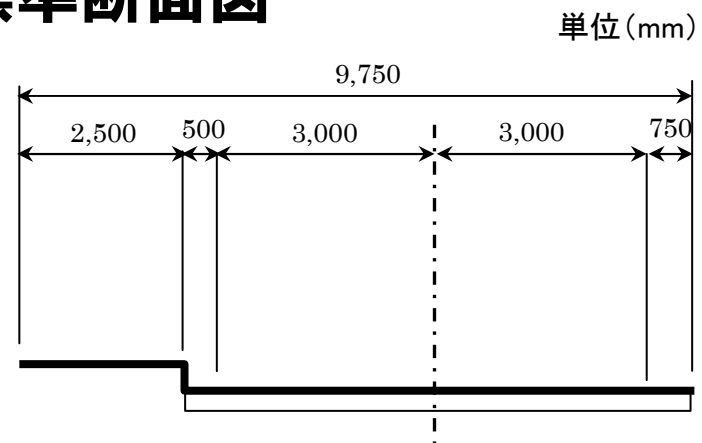
1. 事業の概要
2. 事業の背景と目的
3. 事業の経過及び進捗
4. 事業の費用対効果
5. 今後の方針(案)

1. 事業の概要

◆事業箇所



◆標準断面図



◆事業概要

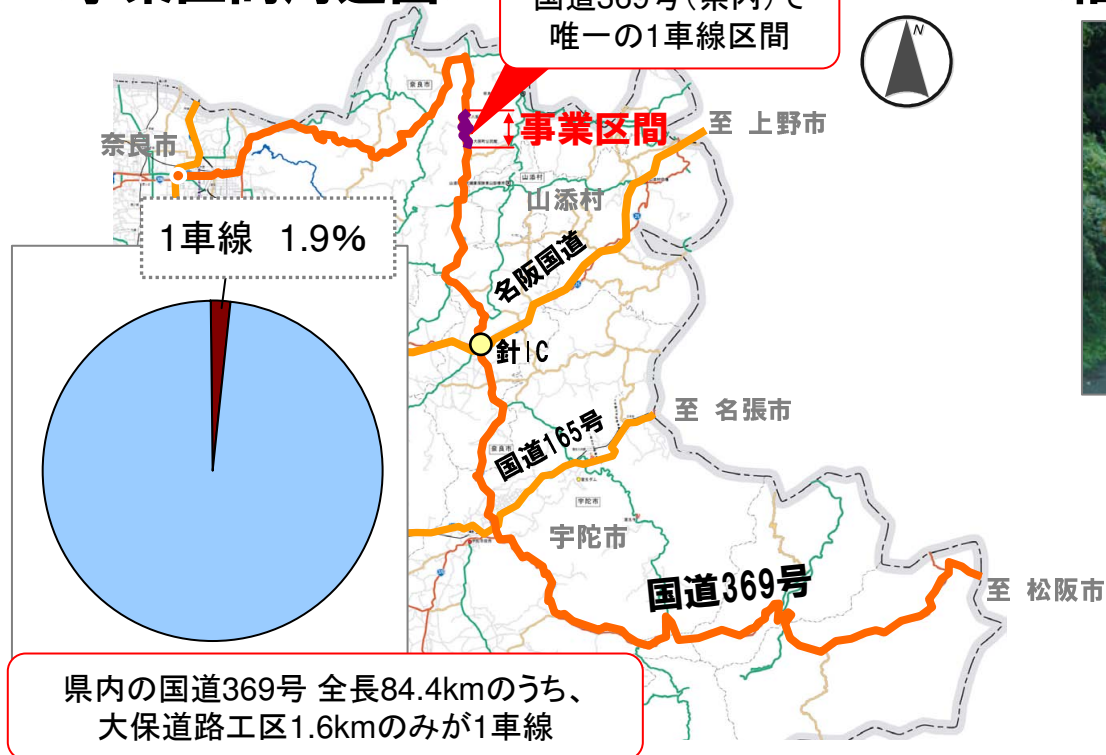
路線名	一般国道369号
事業区間	奈良市大保町内
事業延長	1.60km
構造規格	第3種第3級
設計速度	40km/h
車線数	2車線
道路幅員	9.75m
全体事業費	13.6億円
事業化年度	平成20年度

2. 事業の背景と目的

◆県内の国道369号唯一の幅員狭小区間解消

- ・国道369号は、奈良県奈良市から三重県松阪市に至る一般国道で、奈良県北東部の地域拠点を連絡する幹線道路であるが、事業区間は、県内の国道369号で唯一の幅員狭小区間。
⇒現道の拡幅により、ボトルネックの解消

<事業区間周辺図>



<幅員が狭小な事業区間の状況>

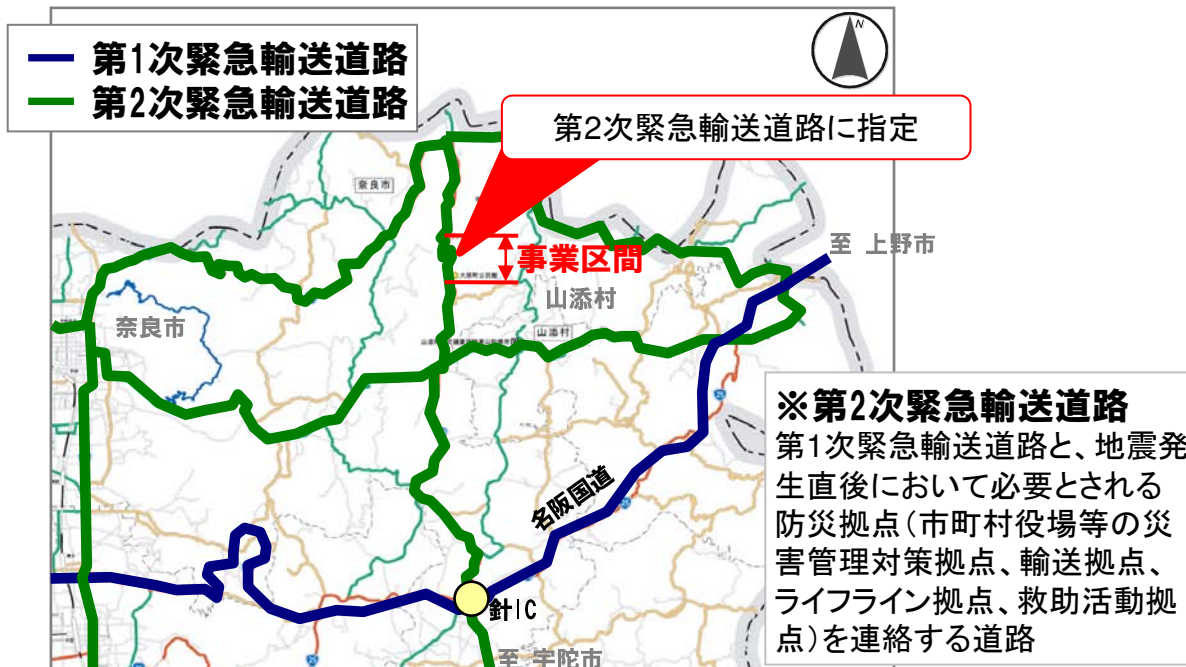


2. 事業の背景と目的

◆緊急輸送機能、走行性・安全性の向上

- ・事業区間は、第2次緊急輸送道路、通学路に指定されている。
 - ・スクールバスや、自転車通学の生徒も通行。
- ⇒現道の拡幅により、大規模震災時や復旧時の緊急輸送機能が向上
- ⇒スクールバスや自転車の走行性、安全性が向上

<緊急輸送道路の指定状況>



<事業区間を運行するバス>



3. 事業の経過及び進捗

- ・平成20年度に事業着手
- ・設計にあたっての地元調整、地図混乱により時間を要したが、用地測量について地元同意を得たところ。

平成20年度 事業着手

平成23年度 地籍整備・用地測量着手

平成24年度 用地測量完了

◇用地買収 進捗率0.0%

◇事業全体 進捗率5.4%

※平成24年9月現在

4. 事業の費用対効果

◆計画交通量と事業費

計画交通量	1,200台/日
事業費	14億円

◆費用便益分析結果

事業全体	$B/C=1.2$
残事業	$B/C=1.3$

注) B、Cは、評価時(平成24年度)の価値に換算している。

◆便益(B)の内訳

	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益
事業全体	14億円	1億円	0億円

5. 今後の事業見通し

◆今後の事業見通し

特に線形の悪い区間を先行的に整備を進め、早期の事業効果の発現を図る。



- ・平成24年度は、地籍整備および用地測量を実施。
- ・平成25年度は、地籍整備および保安林解除を完了し、用地買収に着手する予定。

5. 今後の方針（案）

◆方針（案）

- ・国道369号で県内唯一の幅員狭小区間、線形不良区間であり、緊急輸送道路でもあることから、ボトルネックの解消が必要。
- ・地元調整が整い、事業進捗が見込まれる。
- ・特に線形の悪い区間から先行的に工事を実施し、部分的にでも効果を発現させる。

⇒ 以上の視点から、事業継続が妥当と判断

◆コスト縮減

- ・残土の工区内流用により、コストを縮減する。
縮減額23百万円